

2019年1月NHK中国地方放送番組審議会

1月のNHK中国地方放送番組審議会は、17日（木）、広島放送局において、12人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、2月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

（主な発言）

<放送番組全般について>

- 1月11日（金）ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「老舗家具メーカー 大逆転の舞台裏」を見た。復活までの実際の物語と客観的な成功要因の分析がバランスよく構成されていて説得力があった。為末大キャスターとゲストの議論もよかった。会社を引き継いだ跡継ぎ社長の、最初はスーツだった服装が作業服に変わっていく様子に、仕事のやり方が変わっていったことがよく現れていたと思う。ただ、この会社の成功には新製品開発にあたり、日本のトップデザイナーが参加したことも大きい。自分の強みだけでなく、なぜトップデザイナーにコンタクトを取ろうと思ったのかについても詳しく触れてほしかった。

- 1月11日(金)「ラウンドちゅうごく」を見た。中国地方の地元企業の盛衰を時系列で紹介していて、生き残りをかける中小企業にはヒントになっただろう。出演していた経営コンサルタントの解説が分かりやすく、「得意」と「好き」を見つける」など番組で示していたキーワードがとても参考になった。

(NHK側)

今回、広島企業を具体例として取り上げたが、中国地方の多くの中小企業が役立てることができるように生き残りのためのヒントを導き出すことを強く意識して制作した。今回、ゲストの専門家と為末キャスターの議論も事前収録して、キャスターのことばをできるかぎり番組に生かすようにした。「マーケティングを基に商品開発するという常識に囚われてはいけない」、「売れる商品を作ることを優先しすぎて自分たちの長所を見失っていないか」など、成功の秘けつをキーワード的に分かりやすく伝えてくれたので、中小企業の方だけでなく、さまざまな分野の人にとっても役立つ内容になったのではないかと思っている。どのようにしたら見やすくなるか、今後もさまざまな工夫に取り組んでいきたい。

- 12月18日(火)・25日(火)の「ひるまえ直送便」を見た。「あなたの大切なモノって何ですか?～ぶっつけ本番の島根県浜田市の旅」のコーナーで、小さなお店の秘めたエピソードを紹介していたが、地元の話題だったので興味を持って見る事ができた。また、日を改めて「しまねっとNEWS 610」の中でも放送していたが、時間帯を変えて放送することで見られなかった人も見る事ができるのでよい取り組みだと思う。

(NHK側)

このコーナーは若手リポーターたちが事前取材なしで、ぶっつけ本番で出会った方々から大切なエピソードを伺っている。どのようにしたらより深い話を聞けるか毎回試行錯誤していて、リポーターの成長

の場にもなっている。

(NHK側)

「あなたの大切なモノって何ですか？」は中国地方向けの番組のコーナーだが、島根県内を取材している時には、県域放送の中でも取り上げるようにしている。

- 12月31日(月) アナザーストーリーズ 運命の分岐点「衣笠祥雄ラストインタビュー～鉄人 最後のメッセージ～」(総合 後 4:00～4:59 広島県域)を見た。近しい人たちが語る逸話が散りばめられていて、衣笠さんについて予備知識の少ない人にとっても、よく知る人にとっても興味深く見られる、1時間があっという間に感じられる番組だった。衣笠さんの飛躍のきっかけ・活躍期・スランプに陥った時のことが時系列で紹介されていて、アスリートにも、一般視聴者にもためになることが多かった。初優勝の時のパレードの映像からは、ファンがどれだけ優勝を待ち望んでいたかが伝わってきた。自分の生まれる前の出来事を貴重な映像で振り返ることができるのは、歴史あるNHKならではの感覚だ。

(NHK側)

12月31日(月)に「カープレジエントストーリー」と題して、黒田博樹さん、新井貴浩さんを取り上げた番組と合わせ、アンコール放送した。年末の午後帯にもかかわらずとてもよく見られた。番組の最後で、何のために野球をやるのかという質問に対して、衣笠さんが子どもたちの見本となる大人の姿を見せるためと答えていたが、私たちがそうならないといけないと身の引き締まる思いがした。今後とも機会を見つけて視聴者のニーズに応える編成に取り組んでいきたい。

- 1月7日(月)の「もぎたて！」を見た。西日本豪雨から半年が経過した倉敷市真備町の課題を伝えていた。被災した自宅をリフォーム・再建しようにも建築業者が不足していて進んでいない状況を伝えていて、行政の対策が必要だと痛感させられる内容だった。

また、1月9日(水)の「もぎたて！」では、おでんに入れる倉敷市玉島のカステラ

かまぼこを取り上げていたのがよかった。地元の人以外はほとんど食べたことがないであろう食材を取り上げることで、ほかの地域の人にも関心を持ってもらうことができる。9日(水)の放送はキャスターが歌うオープニングで番組が始まったのも、NHKらしからぬ挑戦でよかった。ただ、途中音声の切り替えミスで声が途切れた箇所があったのは残念だった。

(NHK側)

音声トラブルは申し訳なかった。年末年始の慌ただしい時期でも気を引き締めて取り組むよう制作現場に伝えた。

- 1月15日(火) 「もぎたて！」を見た。前日の成人式の様子を伝えていたが、西日本豪雨の被害の大きかった倉敷市真備町の成人たちも晴れやかに参加している姿を見られてほっとした。いろいろな境遇の中、それでも前を向いて生きていく姿が伝えられていて応援したいと感じた。

(NHK側)

「もぎたて！」では、半年がたった今でもほぼ毎日被災地のことを伝えるようにしている。まだまだ復興が遅れている場所もあるので、そういう場所をきちんと取材し続けることが大切だと考えている。

- 1月16日(水) 「しまねっとNEWS 610」を見た。「ディレクターズ・ラボ」というコーナーで石見焼のすり鉢の工場の若い跡取りの奮闘ぶりを、創意工夫も失敗も含めて伝えていた。頑張っている中小企業の姿を伝えるとほかの人たちにもよい刺激になると思う。

(NHK側)

地場産業で活躍している若者を紹介することは、事業承継の問題にもつながっていくことなので、今後とも積極的に取り上げていきたい。

- 「いろどり」を見ていると、「スポーツ報道部」の力強くテンポのよい進行と、ゆったりとした天気予報の伝え方が絶妙のバランスだと感じる。特に天気予報のロー

テンポなやりとりはお年寄りにも聞き取りやすい。

(NHK側)

「いろドリ」は若い出演者が多い。それぞれの出演者の持ち味を生かして内容の充実に取り組んでいきたい。

- 12月7日(金)さんいんスペシャル 小さな旅「開拓の希望 真っ赤に燃えて～鳥取県 大山町～」を見た。大山の紅葉の映像が地元においても見たことがないほど美しく大変驚いた。開拓村である香取地区に加えて他地区のことも取り上げていたが、香取地区に絞り、入植当時の助け合いの共同生活の様子や、2世3世に開拓精神を受け継いでいく様子を詳しく伝えてもよかったと思う。

(NHK側)

紅葉の映像はドローンによって撮影したもので、ふだん見慣れない角度からの景色で新鮮な印象だったのではないか。世代を超えて開拓精神がつながっていくことをもっと強調したほうがよかったという意見は制作現場と共有したい。

- 1月11日(金)さんいんスペシャル イッピン「暮らしに寄り添うモダンな器～鳥取・焼き物～」を見た。3つの窯元を紹介していたが、三者三様に使う人の気持ちを考えながら作っている様子をよく伝えていて、日頃使っている器に対する愛着が増す内容だと思った。また、地味になりがちな民芸品の番組で、リポーターの生方ななえさんが画面に花を添えていた。地元の民芸品の奥深い部分が伝わることで、愛用者が増えれば、産業の活性化、後継者の育成につながるのではないかと思った。

(NHK側)

作家の方々の協力もあって、地元の人でも新たな発見があるような番組になっていた。郷土文化など地域の資源をこれからもしっかりと伝えていきたい。

- 11月16日(金) Yスペ! 「緊急報告 周防大島町断水」を見た。番組の中で島

内の自主水源の必要性について町長が触れていたが、マスメディアで取り上げていくことが実現を後押しすると感じている。

- 1月11日(金) Yスペ! うまいッ!「世界に一つだけの… はなっこりー〜山口県〜」を見た。栽培の現場を初めて見られたほか、この番組で知った特徴もあった。山口県民にとっては身近な野菜だが、気軽に食べられる野菜だからこそ、県域放送に展開して特徴を詳しく知らせることが、地元野菜への親しみにつながるのではないかと思った。
- 1月15日(火) 「情報維新!やまぐち」を見た。沖縄離島から山口県に移住してきた靴職人の活躍を「My I SH I N」と題して紹介していた。地域で活躍する20代・30代を紹介することは、県内の同世代に向けて大切なことだが、NHKが若い世代にあまり見られていない中で、実際にどのようにしてその世代の人たちに見てもらうかは工夫が必要だと感じた。

(NHK側)

「My I SH I N」は管理部門の職員の提案で2018年4月から始めた。確かに後6時台の地域のニュース情報番組の中で放送するだけでは20代30代の視聴者に見てもらえないので、さまざまな時間に放送するなど工夫をしている。12月24日(月・祝)のYスペ! 特番「Nフェス! ディス I S 山口愛」(総合 後1:05~1:50 山口県域)も若い世代と接触するための取り組みの一例で、イベント会場には家族連れが多く訪れるなど手応えもあった。来年度も引き続き若者への接触に力を入れていきたいと考えている。

- 12月22日(土) 「“駅伝の甲子園!” 全国高校駅伝スペシャル」(総合 後5:00~5:59)と1月12日(土)「駅伝のオールスターゲーム! 全国女子・男子駅伝スペシャル」(総合 後5:00~6:00、6:05~6:43)を見た。昨年度に続く第2弾だったが、懐かしい過去の名場面映像をふんだんに使い、内容が前回よりも充実していて、本番の駅伝中継を見たいと思わせる番組になっていた。ゲストを少しずつ変えるなど視聴者

を飽きさせない工夫をしながら、毎年の定番にしていってもよいと思った。

- 12月23日(日) 目撃! にっぽん「光に向かって進め～サーロー節子 祖国へのメッセージ～」を見た。番組を通して、核廃絶へ向けたさまざまな取り組みだけでなく、人間的な魅力にあふれたすてきなことばがたくさん伝わってきた。日曜日の早朝の放送だったので、若い人たちにも見やすい時間帯で再放送してほしいと思った。また、短い日本滞在期間の中での取材では致し方なかったと思うが、お住まいのトロントでの日常生活の様子を交えるなどして人柄をもっと伝えられるとよりよかった。

(NHK側)

今回の来日にあたっては広島局では杉浦圭子アナウンサーによる単独インタビューを放送したが、若い人にも見てもらえる工夫を考えながら今後とも取り上げていきたい。

(NHK側)

視聴好適時間帯に地域向けの再放送を検討したい。

- 12月23日(日) 皇室この一年「人々に寄り添って～象徴を生きる～」(総合 前9:00～9:49)を見た。西日本豪雨の際も被災地にお見舞いにいらして、ご高齢のためお体の負担も大きいと思うが、本当に多くの被災地に足を運ばれ、その土地土地で人々を勇気づけられている様子を見る事ができた。天皇陛下と言葉を交わした方々が皆一様に笑顔になっていたのが印象的で、象徴天皇制の意義を改めて感じる事ができた。
- 12月31日(月) 「第69回NHK紅白歌合戦」を見た。サザンオールスターズと松任谷由実の思いがけない共演など、平成最後の紅白歌合戦にふさわしい盛り上がりで、家族一緒に最後まで楽しく見る事ができた。
- 1月7日(月)～10日(木) 「みんなで筋肉体操」(総合 後11:50～11:55)を見た。2018年8月27日(月)～30日(木)に放送されたシーズン1はシュールな画面構成

でインパクトを優先していたように感じたが、今回は負荷を軽くする方法も丁寧に説明していて、視聴者に一緒にトレーニングすることを促すスタンスに変化したと思った。今回も進行役の谷本先生のことばのセンスが光っていた。シーズン3にも期待したい。

- 1月14日(月)インタビュー ここから「日本画家 宮廻正明」(総合 前6:30～6:53)を見た。文化財保護と展示を両立するために本物を忠実に再現したクローン文化財を制作する宮廻さんの活動について紹介していた。素材・色合い・質感まで忠実に再現する過程を詳しく紹介していたのは大変興味深かった。また、文化財が身近にあった幼少期の松江での生活が現在の活動につながっていることも知ることができた。

(NHK側)

最新技術によって、本物がある場所に行かなくても芸術品に親しめる環境を作り、本物では不可能な芸術品に触れる体験を可能にするクローン文化財という考え方は現在大変注目を集めている。松江市出身の宮廻さんの活動は今後とも機会を捉えて紹介していきたい。

- 1月14日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「皿を割れ、ふるさとのために～地方公務員・くまモン～」(総合 後10:00～10:45)を見た。最初は冗談なのかと思ったが番組を見るうちに、失敗を恐れず挑戦することの大切さ、真剣に取り組めば人に感動を与えられるというメッセージが伝わってきた。人を笑顔にすることのすばらしさを改めて感じた。
- 1月5日(土) ETV特集 移住 50年目の乗船名簿 第2回「夢と希望と愛の軌跡」を見た。現在82歳の相田洋ディレクターが手がける番組で、1人のディレクターが1968年の最初の渡航以来、10年ごとに、50年間にわたってブラジル移民家族を追い続けていることに感心した。同じ畑を定点観測することで歳月の移ろいが一目瞭然と伝わってきた。

- 12月26日(水) 「米子が生んだ心の経済学者～宇沢弘文が遺（のこ）したもの～」(BS1 後9:00～9:43)を見た。地方のケーブルテレビ局が制作した番組を放送することもあるのかと驚いた。以前、著作を読んだ時に感銘を受け、ほかの人に伝えなかったことを、この番組は見事に伝えていた。Eテレなどで宇沢さんの思想の世界を分かりやすく紹介する番組を放送してほしいとも思った。

(NHK側)

単に地元の偉人というだけでなく、これからの地域経済のあり方や、地域での生き方を考える時に、非常に重要な論点を提示していると思います。今回は衛星波での放送だったが、地元に向けて地上波でのアンコール放送も検討したい。

NHK広島放送局
番組審議会事務局